

2011年度 施政方針

2011年第1回市議会定例会の開会にあたり、新年度の施政方針を申し述べさせていただきます。議員各位並びに市民の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、我が国の経済は、昨年、一時は持ち直しの動きがありましたが、長引くデフレや急速な円高の進行などの影響により、景気は足踏み状態となっており、雇用情勢も依然として厳しい状況にあります。また、少子高齢化と人口減少が進む中で、将来を展望することが困難になっています。

こうした社会経済情勢の中で、市民の不安を解消し、将来に向けた町田の成長を確かなものにしていく、そのための戦略を打ち出すことが求められています。それを考え、実行していくためには、市民の皆様の総力を結集することが必要です。

そこで、2011年度の市政運営の視点を「町田の未来を築く」とし、市民、団体、事業者との協働によるまちづくりを進めてまいります。

それでは、新年度の重要な取り組みについて、ご説明いたします。

最初に、新しい町田市基本計画と中期経営計画の策定についてです。

景気の低迷、人口減少社会への移行、地球温暖化の進行など、自治体を取り巻く状況が大きく変化し、重要な局面を迎えている今、将来に向けた戦略を打ち出していくことが求められています。

そこで、町田の未来に向け、目指すべきまちの姿や、あるべき行政経営を実現していくため、今後の施策と重点的な取り組みを示す新しい町田市基本計画と中期経営計画を策定します。

計画の策定にあたっては、昨年度に引き続き、学識経験者や市民団体の代表者で構成する長期計画審議会から専門的なご提言をいただくとともに、約1200人の市民からなる基本計画検討市民モニターから様々なご意見をいただきながら、検討を進めていきます。

8月に計画素案に対するパブリックコメントを実施し、お寄せいただいたご意見を参考にして、12月には計画を策定します。

次に、保健所政令市への移行についてです。

町田市は、この4月1日に保健所政令市に移行します。「笑顔あふれる いきいき健康都市！～健康寿命日本一をめざして～」を保健所設置の理念とし、町田市の実情に適した、効率的・効果的な保健衛生行政を推進していきます。

町田市保健所には、健康づくりのコントロールタワーとなる企画調整部門を新たに設置し、市民、団体、事業者との連携のもと、市民の健康づくりを推進します。

また、市民にとって身近な保健所となるよう、母子保健、動物愛護など、東京都と町田市の関連業務を統合し、サービスを一元化します。

さらに、保健所の持つ保健衛生に関する専門機能と従来から市が持っているネットワークを総合的に活用し、新型インフルエンザへの迅速な対応など、健康危機管理の体制を充

実します。

続きまして、2011年度の主要な施策について、「安心して暮らせるまち」、「夢のあるまち」、「環境に配慮したまち」、「活力あふれるまち」、「情報共有による協働の推進」、以上、5つの項目に分けてご説明いたします。

はじめに「安心して暮らせるまち」についてです。

長引く景気の低迷や少子高齢化の進展などを背景として、家庭と仕事の両立や、高齢者の介護など、本人や家族だけでは解決が難しい問題に対する社会的な支援がより必要となっています。

昨年、全国で高齢者の所在不明が相次ぎました。町田市では、民生委員の訪問や介護保険の利用履歴などから安否状況の確認ができなかった、75歳以上の方及び70歳以上の单身の方を対象に訪問調査を行いました。今後は、こうした取り組みがますます重要になります。

また、今年は、日本海側を中心とした記録的な大雪や、鹿児島県と宮崎県の境にある新燃岳(しんもえだけ)の噴火など、各地で大きな災害が発生しています。被災した地域の一日でも早い復興を祈るとともに、町田市においても市民生活に大きな影響を及ぼす震災や豪雨などの災害に備えることが必要と、改めて痛感しています。

このため、市民生活における不安の解消に取り組み、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

子育て・子育て支援につきましては、保育所入所希望者の増加に対応するため、20年間期間限定認可保育所の整備や、民間保育所の増改築に対する支援など、引き続き待機児童の解消に取り組みます。

また、地域における子育てを支援するため、忠生地区や町田地区の子どもセンターの設置に向けた検討など、子育て拠点の整備に取り組みます。

さらに、児童・生徒が安全かつ快適に学校生活を送ることができるよう、全ての市立中学校の普通教室に空調設備を設置するほか、小山中学校の建設や鶴川第一小学校の建て替えの検討など、市立小・中学校の教育環境の充実に取り組みます。

健康に暮らせるまちづくりにつきましては、感染症による疾病の発生やまん延を予防するため、肺炎球菌ワクチンやヒブワクチンの接種費用の助成など、市民の予防接種を促進します。

また、高齢者が地域で安心して暮らすことができるようにするため、介護従事者を対象とする研修の促進など、介護人材の育成や確保に取り組むとともに、地域の見守り活動を支える「あんしん相談室」を境川団地と藤の台団地に設置し、高齢者の生活を支える体制を充実します。

防災対策につきましては、災害への備えを万全にするため、防災無線のデジタル化や、災害時の司令塔となる新庁舎内の防災センターの整備に向けた取り組みを行います。また、大雨による浸水被害を軽減するための下水道整備を推進します。

2点目の「夢のあるまち」についてです。

今年も、日大三高の野球部が2年連続18度目となる選抜高校野球大会への出場を決めました。また、昨年は、玉川学園吹奏楽部や鶴川第二中学校合唱団が全国大会で好成績を収めるなど、町田市で学ぶ生徒が大きな舞台で活躍しており、私たちに夢や感動を与えてくれています。

スポーツや文化・芸術は、私たちの生活にゆとりと潤いを与え、明るく豊かな地域社会の形成にも重要な役割を果たしているため、これらを核とした夢のあるまちづくりを進めてまいります。

スポーツによるまちづくりにつきましては、市内で全国大会などのレベルの高い競技に触れる機会を増やすため、2012年夏の高校野球西東京大会の開催をめざし、小野路公園野球場の整備を進めるとともに、2013年の東京国体の会場となる市立総合体育館の改修を進めるなど、スポーツ施設の充実に取り組みます。

また、市立陸上競技場については、FC町田ゼルビアのJ2昇格に向けて、Jリーグ基準に適合する改修を行うとともに、日本陸上競技連盟の第三種公認に必要なトラックの整備に取り組みます。

文化・芸術によるまちづくりにつきましては、市民の身近な地域での活動を支えるため、300人規模のホールや図書館などを備えた鶴川駅前公共施設の建設の推進や、忠生市民センターの建て替えに向けた検討など、文化・芸術活動の拠点づくりを推進します。

3点目の「環境に配慮したまち」についてです。

地球温暖化の防止は、持続可能な環境を将来に引き継ぐための喫緊の課題です。特に温室効果ガスの排出量が多い先進国に暮らす私たちには、温暖化の主要な原因である二酸化炭素の排出量削減に積極的に取り組むことが求められています。

また、町田市は、都心近郊に位置しながらも豊かな自然に恵まれており、昨年12月に実施したインターネット調査でも多くの市民がみどりの保全を望んでいるという結果が出ています。

このため、地球温暖化対策やみどり豊かなまちづくりに取り組んでまいります。

地球温暖化対策につきましては、二酸化炭素の排出量を削減するため、プラスチック類や生ごみの資源化など、焼却処分をしているごみのさらなる削減に向けた取り組みを進めます。

みどり豊かなまちづくりににつきましては、みどりの価値や魅力を活かすため、北部の丘陵地域における農道の整備や雑木林の再生などに取り組むとともに、引き続き薬師池西公園をはじめとする公園や緑地の整備を推進します。

これらの取り組みを着実に進めて、良好な環境を確保し、その環境を将来の世代に引き継ぐため、今後10年間の町田市の環境施策を示す新たな環境マスタープランを策定します。

4点目の「活力あふれるまち」についてです。

多摩26市と相模原市の住民を対象にしたインターネット調査では、「暮らしやすい」という点について、町田市は比較的高い評価を得ています。しかし、日本の人口が減少する中、都市間競争に負けないためには、この調査結果に安住することなく、人や企業に選ばれ都市であり続けなければなりません。

町田市には、首都圏南西部における有数の交通結節点である町田駅があります。しかし、町田駅をはじめとする鉄道駅の多くは市域の外縁部に位置するため、バスが市内における重要な交通手段となっています。

そのため、暮らしやすい都市、そして活力ある都市の実現に向けて、まちの魅力を高める取り組みを進めるとともに、公共交通の充実を図ってまいります。

魅力あるまちづくりにつきましては、人やモノの広域的な交流を活発にするため、原町田一丁目地区のまちづくり基本計画の策定や市役所本庁舎移転後の跡地の活用方針の検討など、中心市街地活性化に取り組むとともに、幹線道路や準幹線道路の整備を推進します。

交通インフラとしてのバスの機能強化につきましては、バスの定時運行を確保するため、町田バスセンターから山崎団地センター間での連節バスの導入や、町田駅周辺に公共車両優先システムの導入を推進します。また、路線バスを利用しにくい地域の移動手段を確保するため、コミュニティバスの新たな導入路線を検討します。

最後に「情報共有による協働の推進」についてです。

地域の課題を解決し、町田市をより良いまちにするためには、市民、団体、事業者と協働してまちづくりに取り組むことが必要であり、そのためには各主体が必要な情報を共有することが重要です。

そこで、市民との情報共有をより一層進めるため、3月に全面更改したホームページをはじめとする広報手段を最大限に活用し、積極的な情報発信に努めてまいります。

また、4月からは、市政に関するお問い合わせに対してより丁寧にお答えできるよう、市役所の代表電話「042-722-3111」の受付時間を、年中無休、午前7時から午後11時までまでに拡充します。

さらに、市民との協働をこれまで以上に円滑に行うため、新たに市民協働推進担当部長を配置して、町内会・自治会をはじめとする市民団体との窓口を市民部に一本化するとともに、「町田市市民生活連絡会」や各地域で開催している「市政懇談会」などの充実を図ります。

以上のような考え方で編成いたしました2011年度当初予算案の規模は、

一般会計、1,412億9,657万円、特別会計、982億9,112万3千円、合計、2,395億8,769万3千円となり、昨年度との比較で、約5.1%の増となっております。

現在、2012年7月の開庁に向けて新庁舎の建設を進めています。この新庁舎は、基本設計の市民ワークショップをはじめ、計画の各段階で多くの市民の皆様のご協力をいただき、提案のあった市民協働空間やワンストップロビー、環境対策などを設計に反映して

います。まさに、市民協働のシンボルであります。

私は、市民の皆様とともに、このような協働の実績を大切に、まちづくりを行う活力をさらに向上させていきたいと考えています。そして、市民、団体、事業者と協働して町田市という都市を運営する「市民協働型都市」を確立したいと考えています。

議員各位並びに市民の皆様のご理解、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

以上、新年度の施政方針を申し述べさせていただきました。ありがとうございました。